

## 大学生と40代男女からみた女性の就労に対する意識調査

### Attitude Survey about the Woman Working of University Students and the Men and Women in Their 40s

天野 ともみ (Tomomi Amano) 指導：町田 和彦

**【諸言】** 現在、日本は少子高齢化が進んでおり、社会を支える女性の労働力確保は重要である。女性の配偶関係別労働力率は、未婚女性よりも配偶女性が低い。正規雇用として働き始めた女性は、結婚や出産等により仕事継続よりも退職や非正規雇用や一時的な離職を選択している。そこで、女性の就労は、夫の就労環境や家庭内の家事・育児参加の程度にも左右されるのではないだろうか。本研究では、今まであまり調査されていない男性からの意見を含め、大学生と40代男女から女性の就労について検討する。

#### 研究1：大学生男女の検討

**【方法】** 調査は、早稲田大学人間科学部に在籍する大学生を対象に質問紙調査を実施した（質問紙配布件数207件）。

**【結果・考察】** 調査における有効回答件数は、203件（98%）であった。「結婚後の女性の働き方」について、母親就労の有無別に大学生の男性を比較した。母親就労有の大学生の男性は、「仕事継続」を希望する割合が高く、母親就労無の大学生の男性は、「結婚・妊娠後退職」を希望する割合が高く有意差（ $P < 0.05$ ）が認められた。そこで母親就労の有無を就労別に比較した。母親が常勤・自営業の大学生の男性は「仕事継続」を希望し、母親が非常勤の大学生の男性は「育児後再就職」を希望していた。また、母親が専業主婦の大学生の男性は、「結婚・妊娠後退職」を希望する割合が高く有意差（ $P < 0.01$ ）が認められた（図1）。したがって、大学生の男性において結婚後の女性の働き方は、母親就労と関係し、母親の影響を受けることが考えられる。

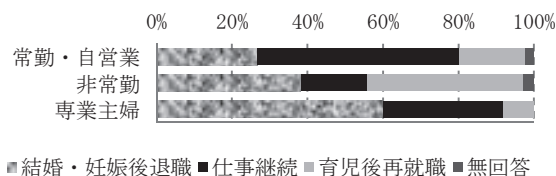


図1：結婚後の女性の働き方：母親就労別大学生男性 (N=104)

#### 研究2：40代男女の検討

**【方法】** 調査は、学士会氏名録より40代男性を対象に無作為抽出し、男性の配偶者にも調査依頼を行い郵送法による質問紙調査を実施した（質問紙郵送件数1050件）。

**【結果・考察】** 調査における有効回答件数は、152件（14%）であった。「日常の家事は主に誰の役割か」について子有・

子無・独身男性を比較した。子有男性は、「妻の役割」と回答した割合が高く有意差（ $P < 0.05$ ）が認められた。そこで、子有男性の妻の就労割合を分析した。「妻の役割」と回答した子有男性の妻の就労は、非常勤と専業主婦の割合が高く、「夫婦の役割」と回答した子有男性の妻の就労は、常勤・自営業の割合が高く有意差（ $P < 0.01$ ）が認められた（図2）。したがって、子有男性の考える日常の家事役割意識は、男性自身よりも時間的余裕の有無が関係していると考えられる。

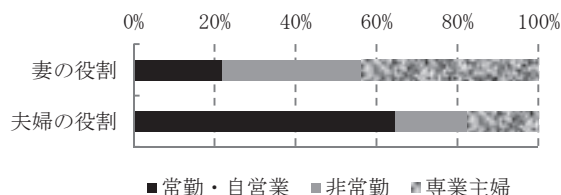


図2：日常の家事役割：子有男性の妻の就労 (N=52)

次に、「結婚後の女性の働き方」について、結婚後も継続して働くかどうかを、40代女性の就労別に比較した結果、有意差（ $P < 0.01$ ）が認められた。常勤・自営業女性と専業主婦は、自分と同じ就労形態を選択していた。一方、非常勤女性は、「仕事継続」の回答割合が41%あり、現在の就労と異なっていた。したがって、非常勤女性は、本来仕事を継続したかったが、できなかった何らかの理由があったことが考えられる。

#### 研究3：大学生と40代男女の検討

**【結果・考察】** 「結婚後の女性の働き方」について、「結婚・妊娠後退職・育児後再就職」と「仕事継続」の2群に分類し大学生と40代の女性を比較した。大学生の女性は、「結婚・妊娠後退職・育児後再就職」と回答した割合が高く、有意差（ $P < 0.05$ ）が認められた（図3）。したがって、大学生の女性は、専業主婦や育児を終えるまで一度退職をするという選択を希望し、専業主婦志向が伺えた。

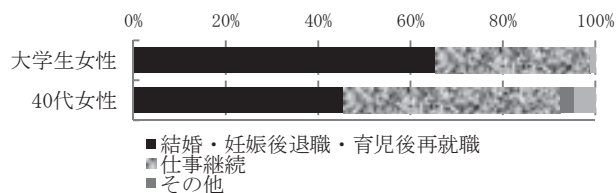


図3：結婚後の女性の働き方：大学生女性と40代女性 (N=156)